



「OUTDOOR VALLEY PROJECT」
十勝をアウトドアのアジアの聖地へ



OUTDOOR VALLEY
四季 TOKACHI



キャンピング
フィッシング
サイクリング
ハイキング
マウンテンクライミング
ラフティング
バードウォッチング
ハンティング
セグウェイ
ホースライディング
熱気球

ツリーイング
カヌーイング
キャニオニング
ロングトレイル
トレッキング
トレイルランニング
チーズづくり体験
農場体験
酪農体験
アイスフィッシング
スノーシュー
スノーモービル

世界にも通じる、この素晴らしい景観

**北海道十勝の四季を通じた
アウトドア・ビューやスポーツ
一部地域だけでなく、地方の自然環境を
活かした北海道のアウトドアの取り組みが…**

**本当にブランド化？
多く顧客に発信・伝わり？
上手に連携しビジネス化？
されているのだろうか？疑問！**

2011年ころまで十勝は
通過型観光地の北海道**代表地**の1つだった。
実際に大手旅行代理店に「見る場所・イメージが無い」と言われました。

イメージを変えた、きっかけは北海道ガーデン街道

延べ入場者

2009年→2012年

全体入場者のビフォア・アフター

35万人→**55万人**

通過の代表地**十勝**の**5**ガーデンが**けん引**した証拠！

10万人→**35万人**

北海道ガーデン街道について

北海道を代表する8つのガーデンが集中している大雪～富良野～十勝を結ぶ全長約250kmの街道。北海道の気候、景観を生かし、体験・食も充実した観光ルートになっている。
 (北海道ガーデン街道協議会運営)



(出典)北海道ガーデン街道HP



上野ファーム代表

- ①大雪 森のガーデン(上川町)
- ②上野ファーム(旭川市)
- ③風のガーデン(富良野市)
- ④十勝千年の森(清水町)
- ⑤真鍋庭園(帯広市)
- ⑥十勝ヒルズ(幕別町)
- ⑦紫竹ガーデン(帯広市)
- ⑧六花の森(中札内村)

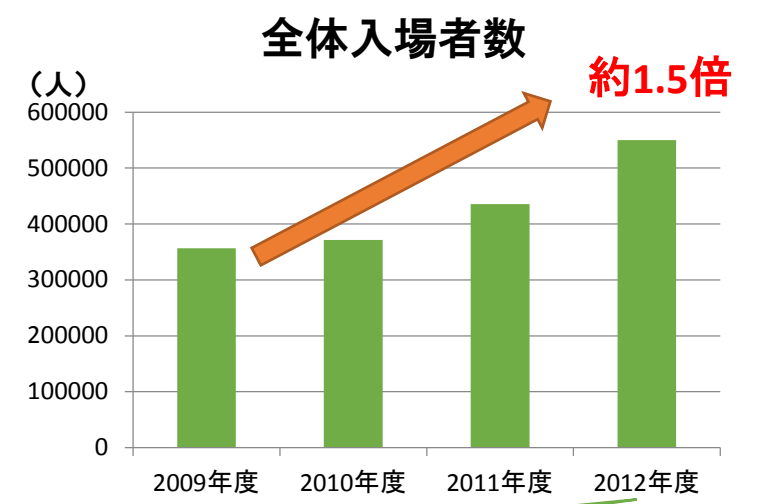
北海道ガーデン街道チケット

8施設の中から4施設が利用できる割引チケットがあり、来場者の増加に寄与している

8施設の中から4施設をご利用いただける便利でお得なチケット

北海道ガーデン街道チケット

■実施期間: 2014年4月26日～10月19日 ■料金: お一人様 2,000円(税込)



北海道ガーデンショー開催

マクロ経済・外貨獲得のためにも…
地方の元気再生とその継続のためにも…
やはり観光振興が重要。そのためには
観光イノベーション（新結合）

の推進がさらに必要

～特に道東・道北のように札幌のような大都市圏や
インバウンド客が利用するハブ空港・新千歳空港から離れたエリア～

北海道ガーデン街道

の広域連携方法に**ヒント**が隠されている
と私は考えます。

北海道ガーデン街道

を構築したシステムとは？

キーポイント

◇民間や観光協会、行政などによる
広域連携と受入れ体制構築

◇点⇒線⇒面⇒新しい概念創造
～連携による新しい地方価値の創出～

◇広域連携と本当の顧客本位を軸とした
受入れ体制の構築により、
大きな市場が反応する・動くことが大事
～生業として継続するために～

**帯広市長から説明
がありました…**

**もっとガーデン街道の仕組みを
地方創生に活かさないか
悩みを抱えたまま**

**「イノベーション・プログラム」
参加しました。**

Snow Peak (日本を代表する顧客本位のアウトドアメーカー)

山井太社長(年60泊⇒約2週間は十勝)
「十勝は世界に誇れるアウトドアの場所」と話す！

Space Market (空き場所と組織・人のマッチングの達人カンパニー)

重松大輔社長

「場所の活用はまだまだ地方でもできる」と話す！

2人の革新者セッションの

話を聞きピンとききました！

北海道ガーデン街道
のシステムが応用できる
イノベーション・プロジェクトがあると！

本格化するアウトドアブーム

- 2007年度以降 **団塊の引退**
⇒キャンピングカー・釣り具のニーズUP
- 2010年 **山ガールブーム・登山ブーム**
⇒アウトドアグッズのニーズUP
- 十勝の道外観光客入込数 約 **245万人**
(平成26年度)
⇒平成22年度から比べて118%UP



十勝はアウトドアの聖地になれる！？

十勝を観光立国の地
OUTDOOR聖地にするために

産学官労金言が
連携しビジネス化

世界中・日本中に
この発信が伝わり
多くの顧客が来道・感動し
ブランド化・リピート化



地域が観光で豊かになる仕組みづくり

では具体的に
どうビジネス化
するのか？

すでに
北海道ガーデン街道
で実施済み！

2社運営による
受入れ体制の構築が理想

☆任意の協議会

☆営利の株式会社

任意団体 北海道ガーデン街道協議会

7ガーデン・6ホテル・3観光協会



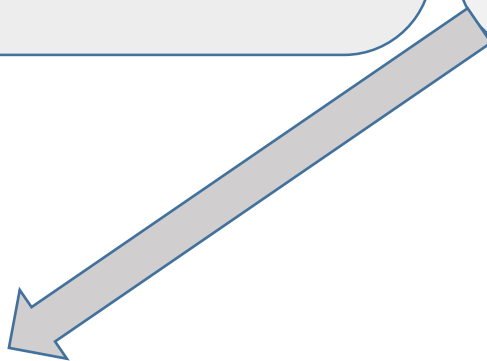
役割 広報・PR

株式会社 北海道ガーデン街道

ガーデン6社の出資で設立 資本金300万円



役割 営利や受入にかかわるもの全般



共通入場チケット販売
旅行代理店との手続き
顧客からの窓口
データの蓄積と活用

オリジナルグッズ卸・販売
ガーデン・ホテル・物産協会
スケールメリットをいかす

広告収入
パンフレット掲載
キャンペーン実施

利益は、次年度のパンフレット・リーフレット・ポスター・HP管理などにあてる。

**運営は協議会と
地域観光振興ベンチャー企業
旅行会社との契約・信頼確保済み
地域振興と事業継続のために。
株式会社北海道ガーデン街道は
今のところ順調です。**

1年目 24,529千円

2年目 48,606千円

3年目 59,248千円

4年目 65,685千円

OUTDOOR VALLEY TOKACHI

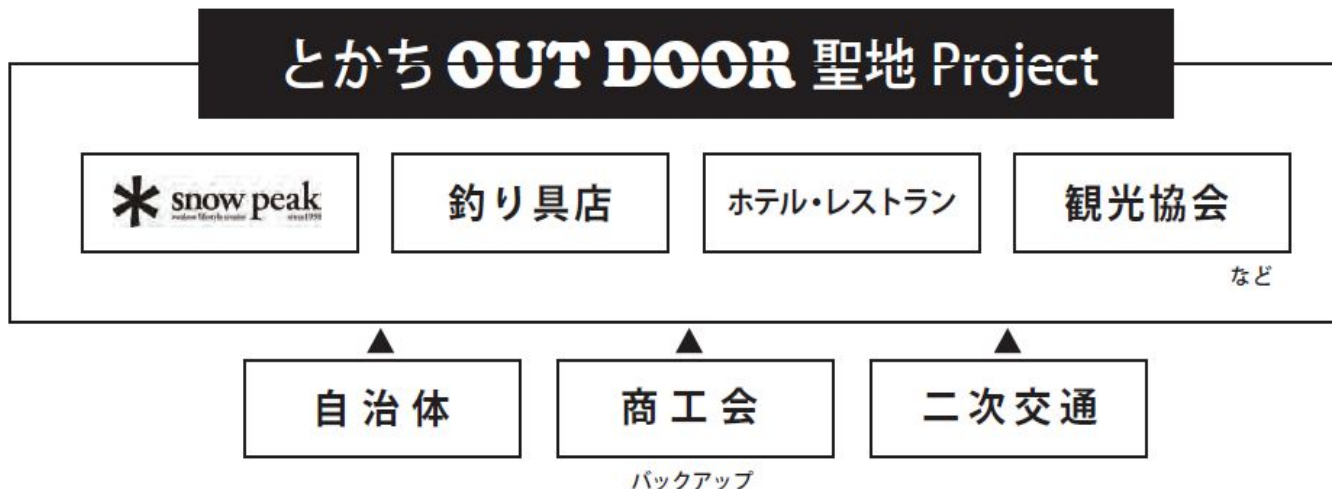
を推進するためにも新しい概念
観光協会とDMOによる
2社による受入運営体制
を行うべき！！

⇒より**具体的**には？

「アウトドア」を新たな十勝の観光資源に

全国に情報を発信し、利用者の窓口(事務局)をつくる。

<事務局>



地域全体での組織・体制づくりが必要

売上は手数料(レンタル・体験・ガイド)、広告料(パンフレット)
ふるさと納税や観光施設や場の利用税(使用限定)、その他

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

全国、特に自然豊かな地域への展開も可能性あり⇒活性化だけでなく、雇用にもつながる！

では具体的な
ターゲット・顧客
は誰なのか？

■イメージフロー

- ①ファミリーやカップル、アウトドア初～中級者が手ぶらで旅行とアウトドアができるシステム構築へ(低料金ガイド)
 - ②インバウンド客が利用しやすいシステム構築(高額ガイド)
- ⇒課題はトータルコーディネートする受入れ窓口が無い



(例1)とある都心のファミリー:子供たちがアウトドアとフィッシングを北海道でしたい！でもキャンプ道具を持っていくには大変、釣りもどこでして良いのか…！？

⇒最近テレビで見た…十勝の市町村長がアウトドア聖地を宣言したそう。香川のうどん県のように！早速アウトドアバレー事務局に電話⇒1泊目はホテルに宿泊。最近十勝にできた有名アウトドア新店舗。そのスタッフがテントの立て方をホテルの庭で丁寧に教えてくれた。家で使っている安いテントとは大違い…欲しいな。2泊目はレンタルテントで宿泊。釣り道具も案内してくれたショップでレンタル。プロガイドだと高いが地元の事を良く知るバレー事務局に登録している釣り好きおじさんが釣りショップまで迎えに来てくれた、しかも低料金で案内。釣れた魚も提携するレストランで調理してくれた！家族も大満足だし、ガイドのおじさんも優しく、新しいファミリーが十勝にできた！また必ず家族で行こうね！

■イメージフロー

- ①ファミリーやカップル、アウトドア初～中級者が手ぶらで旅行とアウトドアができるシステム構築へ(低料金ガイド)
 - ②インバウンド客が利用しやすいシステム構築(高額ガイド)
- ⇒課題はトータルコーディネートする受入れ窓口が無い



(例2)オーストラリアからのカップル:ニセコも良いが、もっとアウトドアとフィッシングを北海道でしたい！でも釣りをどこですてたら良いの！？また日本の釣りのルールが分からない。自国は受入れ体制がしっかりしていて、お金を払えばルールやガイドなどしっかりと教えてくれるのに。

⇒友人が教えてくれた…十勝にはニュージーランドを手本にしたシステムがあるそう。早速アウトドアバレーHPで予約ができた⇒英語対応もしっかりしている。1泊目はホテルに宿泊…なんとホテルで釣り具のレンタルができるなんて便利だな！翌朝プロガイドがホテルまで迎えに来てくれた。英語対応もばっちりのガイドで安心だ。釣れた魚も宿泊したレストランで調理してくれた！彼女も大満足だし、ガイドも安全対策からホスピタリティまで素晴らしい！夏は十勝でアウトドアキャンプにフィッシング、冬もワカサギ釣りときーが十勝でできるそう一石二鳥だ！終了後はトリップアドバイザーにレビュー☆を5つ付けよう。次の利用者もこのレビューで利用しやすくなる事、間違い無い！アウトドアなら十勝で決まり！

『デスティネーション・マーケティング・ケース : ニュージーランドの取り組みから』 (高崎経済大学 佐々木茂著)

• 「ニュージーランド経済に貢献する観光」(P4)

・ **国立公園**や**自然保護区**の**価値向上促進**: 政府がフィヨルド国立公園に毎年投資する880万NZドル(1NZドル=80円)は地域に1億9600万NZドルの**消費**と1600人の**雇用**を生み出し、**付加価値**収入7800万NZドル、世帯収入5500万NZドルをもたらす

⇒ 2006年に旅行者が自然体験型の観光に参加した回数1570万回。**海外**からが**42%**

⇒ **自然体験**を目指す**海外**からの**旅行者**は、一般の観光客よりも**長期滞在**となり、より**多く消費**する傾向がある。平均すると、一般観光客**2850NZドル**、自然体験客**3250NZドル**

増える道内インバウンド客
14年は150万人、今後さらに増予測
ただし人気の観光都市より**出遅れ**ている地方都市



これから地方都市にも来てほしい
インバウンド客は？

ターゲットを**明確**に！



自然志向の**高い**お客様を！

人気観光都市との連携を！

札幌・小樽・ニセコ・富良野など…

客数 < **滞在日数**

経済効果予測

十勝5ガーデンが連携したことで、
年間50,000人が訪れるようになった。
50,000人×消費単価80,000円＝約**40**億円
十勝・上川への経済効果がありました。

OUTDOOR VALLEY

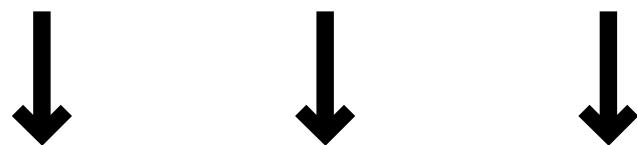
消費単価200,000円

- 1年目 1,000人利用で**2**億円を予測
- 2年目 3,000人利用で**6**億円を予測
- 3年目 6,000人利用で**12**億円を予測

NZフィヨルド国立公園では年間7億の投資で160億円の経済効果
約1,600人の雇用を生み出している。（2006年）

『デスティネーション・マーケティング・ケース:ニュージーランドの取り組みから』（高崎経済大学 佐々木茂著）

**ただしアウトドア事業だけでは自主財源に不安が残る
自主財源の確保に5年は必要**



**よって十勝観光全体を
マネジメント・観光振興する**

十勝版DMO

として機能を持つ組織へ

まとめ

今後、必要なもの・こと

①受入れする体制を産官学労金言で確立

②アウトドア先進国NZなどの視察・システム構築

例：指定河川でのフィッシングに有料エリアを設ける、キャッチ&リリース

③ネットによる受入れシステムの構築

国内外への情報発信の拠点

観光客⇔地元おじ・おばちゃんガイド(マッチングシステム)

④パンフレット・ポスター等の作成とPR・PM

⑤上記を行うための資金の調達

⑥自主財源確保のための法令・条例

の整備や規制緩和⇒具体的には

規制緩和希望案①

【国立公園の使用方法における規制緩和】

1、十勝管内において自然公園法に基づき保護及び利用されている国立公園等の使用に関してその緩和を希望。

例)

場所：大雪山国立公園内 然別湖内の一部（通称 うぐいす湾）

内容：日本一厳格なレギュレーションのもと、遊漁として運営を行われている「グレートフィッシング」の参加者向けに、上陸の許可及び日よけタープ・テーブル・イスの設置と飲み物のサービス等営業行為の実施。

- ①優れた自然風景地を保護するために、規制を強めるのではなく、適切な管理のもと一部を開放することで、人と自然が適切に接する場を設ける。
排他的な保全ではなく、積極的活用による自然環境保全を図る。
- ②遊漁参加者への更なる顧客満足度の向上、伴う十勝への再来場促進が狙える。
- ③「太古の北海道」を自然から感じ取っていただく。

※「グレートフィッシング」

- ・然別湖内に生息するミヤベイワナを保護するために天然記念物生息エリアとしている。
鹿追町の積極的な保護・養魚により資源量は保たれており、試験的に遊漁を解禁している。
- ・運営：NPO法人北海道ツーリズム協会 ・漁業権者：鹿追町
- ・実施内容：年間33日間（2015年実績）、1日50人のみの特別解禁で遊漁可能
- ・集客実績：約1100名（2015年実績）

規制緩和希望案②

【農地の使用における規制緩和】

1、農地（遊休農地）の活用

場所：十勝19市町村内

内容：農地・牧草地を使用したアウトドア（宿泊キャンプ・日帰りキャンプ）の実施。
伴う、営業活動（代金の収受）希望。

①牧草地の活用

十勝の広大な大地・高い空、そして美しく手入れされた牧草地は人をひきつける。
同様に十勝は食も最大の魅力であるので、これら二つを同時に実現させることは
他の地域ではまねのできない強力なツールとなる。

美しい牧草地で、十勝の食材を楽しみたい。

②農地の活用

アウトドアを通じた小規模な六次化を体験（収穫⇒調理⇒実食）させることで
更なる十勝の魅力発信・発掘となる。

③生産者と消費者を直接結び付け、十勝の食を知っていただく機会創造。

結果的に道産食材の積極的活用につながる。

規制緩和希望案③

【河川】

1、河川内遊漁ルール策定

法律上、河川内の占有及び制限は水利権・漁業権者のみとなるが、北海道内内水面においてはその大半が自由使用の範囲内の為、その利用者の裁量にゆだねられている。
結果的に、生息する魚類及び河川を取り巻く自然環境は悪化をたどっている。

そこで、河川内の一部で、入釣される遊漁者に向けて制限若しくは規制をかけ、保全を図りたい。
同一河川内においてゾーニング（区間による釣りの制限）を行い、多様な遊漁者への平等性を保つ。

場所：十勝館内の指定河川

内容：①キャッチ&リリース区間（釣った魚の再放流）

管理を行い、区間内の釣った魚（ニジマス・オシロコマ）の再放流を義務化させたい。

必然的に魚が残る為に、ゲームフィッシングを楽しむ方への来場動機づけとなる。

尚、近隣札内川は毎年非常に多くの道外釣り人が来道し、ゲームフィッシングのメッカとなっている。

②上記区間外は制限なし

リリース義務はなく、持ち帰り等の判断は個々しだい。

釣った魚を食べたい遊漁者も今まで通りの釣りを楽しめる。



OUTDOOR VALLEY PROJECT
十勝をアウトドアのアジアの聖地へ
そのためにも十勝版DMO確立を行います！
ご清聴ありがとうございました！